

シリーズ

阿久比を歩く ③②



祠がまつられる若宮八幡宮跡

梅雨空の日曜日の午後、ぶらり旅に出掛けた。今回は福住村を歩いた。絵図には南端から福山川まで道路が延びている。現在の県道名古屋半田線であろう。今年一月には「福住新橋」が開通し、道路幅も広がり多くの車とすれ違う。
荒古付近の「若宮八幡宮」を探した。県道から背の高い木が目につく。その木を目標に進む。
小高い丘に二つの祠がまつられて



福住村絵図(阿久比町誌資料編1村絵図解説書から)

梅雨空の日曜日の午後、ぶらり旅に出掛けた。今回は福住村を歩いた。絵図には南端から福山川まで道路が延びている。現在の県道名古屋半田線であろう。今年一月には「福住新橋」が開通し、道路幅も広がり多くの車とすれ違う。
荒古付近の「若宮八幡宮」を探した。県道から背の高い木が目につく。その木を目標に進む。
小高い丘に二つの祠がまつられて

いる。津島神社と秋葉神社と書かれた札が目につく。秋葉神社の祠の前には二基の常夜灯が並べられ「福住村中安全」と刻まれている。八幡宮は民家の間に宮跡としてひっそりと残る。(若宮八幡宮は大正元年に縣神社に合祀される。)
細道を通り抜け、福山川に突き当たる。川は午前中の雨で増水し、泥水で濁っている。橋を渡り絵図の東西に通じる道を東へ向かう。
北側に「縣神社」と書かれた白いのぼりが何本も連なっているのが見えた。絵図に記された「氏神」である。
坂道を上る。さらに石段を上るとても勾配がきつく息が切れる。やつとの思いで縣神社に到着。
拜殿の正面には直径三十センチくらいの鈴がつり下げられていた。さい銭箱に小銭を投げ、鈴を鳴らしてから願い事をする。(何を願ったかはヒミツ)



大きな鈴がつり下がった縣神社の拜殿

最後に「寺」と記された場所を訪れた。現在の興昌寺である。
山門に向かって左の行者堂から、知多四国八十八カ所の創始者の一人、福住村出身の岡戸半蔵像が顔をのぞかせている。にこやかな笑みは「お疲れさん。次回はどこに行くのかね」と声を掛けられているように見えた。

あぐいぶらり旅

村絵図を歩く(福住村)